

スキルとウイル

あけましておめでとうございます。新たな一年が、酪農家にも乳牛にも良き年である
ますように…



多くの JA では営農計画を作成する時期を迎えます。
この際、段取りとして概ね次のような手順がよくとら
れます。



Happy New Year

まず1頭当たりの年間乳量に経産牛頭数を掛け合
せ、年間出荷乳量を予測し、収入のメインである1年間の総乳代をつかみます。これに個
体販売や雑収入などを整理して、最終的に予想される総収入を算出されます。

一方支出面では、エサ代や肥料代といった諸経費を前年の実績を参考にしながら推測し、
総支出額を計算します。

これで収支があればOK、判子を押して一丁あがりということにもなるでしょう。しかし、
「収支が合わない」「借入金や利息が払い切れない」「生活費や教育費がまだかかりそうだ」
ということになると、いろいろと頭を悩ますこととなります…。

単年度の収支を合わせるため、つい目先の数字ばかりを追ってしまいがちにもなります。

もちろん赤字にならないように検討することは大切
なことです。せつかく計画をたてるのであれば、
営農計画には『経営戦略(魂)』を込めたいものです。

本来の手順としては、まず単年度の借入金とその
利息を確認し、これに新たに投資したい金額や預貯
金したい金額を加えます。さらに必要とする家計費
や支払うべき所得税などをこれに足すと、農業およ
び農外収入によって“得るべき所得額”が明らかに



なります。そしてこの所得を得るため、今年さらには中・長期的にどういった経営を展開
していくかが明確となり、経営戦略を練っていく上でも指標となります。

特に近いうちに畜舎や機械をはじめとした投資を検討している、さらには教育費が増加し
てきたり、世代交代をするといった事情があるならば、単年度の収支だけでなく、先々も
考慮した経営戦略が求められます。こうした大切な経営指針を定めるため、一番牧草の収
穫と同等の時間や気持ちをこめても良いでしょう。

たとえ数年間は厳しい経営を余儀なくされることがあっても、戦略やそれを実現化させる
ための手段や道筋が明確化されていけば、長期的な展望が見え、「ここしばらくが勝負のと
き」と踏ん張りも効くでしょう。しかし展望が五里霧中にあると、毎日・毎年の仕事もマ
ンネリズムに陥りやすくなります。経営戦略は、頑張り甲斐ばかりか、仕事を楽しめるよ
うな状況を作り出していくという点からも大切でしょう。

また経営計画には、数値だけでは表せないことも含まれるでしょう。それは人の潜在能力
ややる気といった要素です。キャッシュフローなど財務諸表には問題がなくても、実際に
組織を動かしているのは人間です。やる気や責任感のない職員を少なからず抱えているよ
うな職場は、発展がないばかりか、先細りするばかりです。数字で



は判断し得ない情報は、経営陣が自ら現地や現場に赴いて判断す
べきでしょう。牛や農場もその潜在能力がどの位あるかといったこと
は、現地でしか知り得ないことも多くあります。

腹の据わった人間の凄みは、仕事に対してプロの姿勢を崩しません。安易な妥協を許さず、
自ら定めた目標に向かって仕事に取り組みます。プロを志す人は「何が何でもやり抜く」
という強い意思や覚悟(ウイル)を据えてかかることが欠かせないでしょう。

特に苦しい経営を乗り切ってきた人は、その過程を自慢することなく、責任に
応え続けてきたというプロ中のプロの顔をしています。美辞麗句を並べること
よりも、家族や経営を守るため、不断に湧いてくる問題に対して、
具体的な解決策を見出しながら懸命に取り組んでいく姿勢には脱帽
させられる思いです。

情報や技術など(スキル)は、プロの仕事のお手伝いをするもので、
ウイルに取って代わって主役を張れるものではありません。

